

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題					
65	1	健康長寿で生活を送るために	1	元気なうちからの取組みの推進	フレイルサポーターの養成	開催回数	B	2	2	確定	サポーター養成研修は予定通り開催できたが、養成者数は目標値に届かなかった。他の事業と連動させ、サポーターを増やす工夫が必要である。				
サポーター人数							30	14							
66							1	フレイルチェック事業の推進	開催回数	B	23	22	見込	予定通り開催できた。参加者を増やすための更なる工夫が必要である。	
					チェック参加人数				460		380				
67							2	集中型介護予防教室「はつらつ教室」の充実	フレイル予防の普及啓発	eスポーツ開催回数	B	12	12	確定	3会場で新しい社会参加の場をつくることができた。多世代交流ができるような仕組みを検討していく。
					参加者数					180		183			
68							2	集中型介護予防教室「はつらつ教室」の充実	はつらつ教室 フレイル予防コース	開催回数	C	75	75	見込	予定通り開催できたが、参加者数が目標値に届かなかった。参加者を増加させるために、高齢者あんしん相談センターとの連携強化を図る必要がある。
						延べ人数				1,200		880			
							3	各種介護予防教室の充実	はつらつ教室 オールフレイル予防コース	開催回数	B	10	10	確定	予定通り開催できたが、参加者が目標値に届かなかった。今後は新たな内容を盛り込み、参加者増への工夫を図る。
						延べ人数				150		100			
							3	各種介護予防教室の充実	腰痛・ひざ痛予防コース	開催回数	B	10	10	確定	予定通り開催できたが、腰痛予防とひざ痛予防では内容が異なるため、交互に開催することも検討していく。
						延べ人数				150		150			
							4	高齢者のための健康相談等の開催	ウォーキング教室	開催回数	C	5	4	見込	大きな公園が近くにある公共施設で開催しており、今年度は針ヶ谷コミュニティセンターを会場に実施した。大きな公園で自主活動が継続できるように支援していく。
						延べ人数				125		40			
69			4	高齢者のための健康相談等の開催	高齢者サロン等での健康相談・健康講座	健康相談回数	B	15	12	見込	高齢者サロン等から依頼があり健康相談を実施した。気軽に相談できる機会を確保していく。				
		健康相談延べ人数				150		160							
			4	高齢者のための健康相談等の開催	高齢者サロン等での健康相談・健康講座	健康講座回数	A	40	43	見込	高齢者サロンや老人クラブから依頼があり健康講座を実施した。他の事業とも連動させ、フレイル予防等の普及啓発を行った。				
		健康講座延べ人数				1,000		1,350							
			5	高齢者のための健康相談等の開催	ホッと安心健康相談	開催回数	B	35	34	見込	介護予防拠点施設3会場で実施した。気軽に相談できる機会を確保していく。				
		延べ人数				280		240							
70			5	高齢者の保健事業等の取組み	特定健康診査と特定保健指導		B	-	-	-	特定保健指導の実施率が確定するのは、令和7年10月ころとなります。				
		高齢者の保健事業等の取組み		高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業	保健指導人数	B	60	52	見込	「低栄養」や「高血糖未受診者」等に訪問等で個別支援し、介護予防教室への参加や受診勧奨を行った。					

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題						
72	1	2	1	介護予防につながる身近な通いの場の充実	ふじみパワーアップ体操地域クラブの拡充	クラブ数	56	54	見込	新たに1クラブが立ち上がった。年度末から新たにリーダー養成講座を開催する。						
参加人数						1,160	1,150									
地域自主活動の支援					グループ数	35	38	見込	eスポーツ講座後に自主活動として継続することができた。							
					参加人数	350	360									
高齢者いきいきふれあいセンターの管理・運営					開催日数	243	243	見込	ふじみパワーアップ体操地域クラブや自主グループ活動、eスポーツクラブの活動場所となっている。							
					利用人数	3,645	3,500									
市内介護予防拠点施設での活動の充実				-	-	-	介護予防拠点施設2か所で、eスポーツ講座を開催し新たな自主活動を増やすことができた。									
73			2	3	2	自立支援・重度化防止に向けた取組み	リハビリ相談	延べ人数	30	15	見込	作業療法士が要支援等の認定を受けている方などの相談を受け、心身機能等をアセスメントし、福祉用具やサービス利用について助言した。				
要介護者等に対するリハビリテーションサービスの提供体制の構築							回数	1	1	確定	リハビリテーション職が所属する事業所、医療機関と連携を図るために、リハビリテーション連絡会を立ち上げた。					
							介護予防手帳の活用		-	-	健康管理に役立てられるよう、フレイルチェック測定会や介護予防教室修了後に渡している。					
74							3	4	2	自立支援・重度化防止に向けた取組み	リハビリテーション専門職等による自立支援に向けた取組みの強化		-	-	-	地域ケア会議にリハビリ専門職が参加し、顔の見える関係づくりを行い、介護予防への取組が必要と考えられる方について、高齢者あんしん相談センターと一緒に訪問し介護予防教室への参加を促した。
											多様な主体による多様なサービスの展開		-	-	-	4/30からウェルシア薬局株式会社の移動販売を開始した。また、ダイハツ社の共同送迎事業の検討を行った。
75	3	4					2	自立支援・日常生活支援総合事業の充実	高齢者の移動手段等に関する検討		-	-	-	地域づくり加速化事業に参加し、市民、包括職員、生活支援コーディネーターとともに、新たな移動支援施策について検討を行った。令和7年度は水谷東安心まちづくり協議会に委託し、ボランティアによる移動支援を実施できる見込みとなった。		
			基本チェックリストの活用	実人数	40	32			見込	基本チェックリストにより、事業対象者となった方は見込みよりも少なかった。地域づくり加速化事業に参加し、市民、包括職員、生活支援コーディネーター、健康増進センターリハ職とともに、基本チェックリストの活用について検討を行い、受付体制を見直すこととした。令和7年度は具体的な方法や予算について検討を行いたい。						
77	3	4	2	自立支援・日常生活支援総合事業の充実	多様な主体による多様なサービスの展開		-	-	-	4/30からウェルシア薬局株式会社の移動販売を開始した。また、ダイハツ社の共同送迎事業の検討を行った。						
78					高齢者の移動手段等に関する検討		-	-	-	地域づくり加速化事業に参加し、市民、包括職員、生活支援コーディネーターとともに、新たな移動支援施策について検討を行った。令和7年度は水谷東安心まちづくり協議会に委託し、ボランティアによる移動支援を実施できる見込みとなった。						
78	3	4	2	自立支援・日常生活支援総合事業の充実	基本チェックリストの活用	実人数	40	32	見込	基本チェックリストにより、事業対象者となった方は見込みよりも少なかった。地域づくり加速化事業に参加し、市民、包括職員、生活支援コーディネーター、健康増進センターリハ職とともに、基本チェックリストの活用について検討を行い、受付体制を見直すこととした。令和7年度は具体的な方法や予算について検討を行いたい。						

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題
80	2 住み慣れた地域で安心・安全な生活を続けるために	1 重層的・包括的な相談支援体制の強化	1 地域包括支援センター機能の充実	総合相談支援		B	-	-	-	実際に各地域で孤立している、高齢者の実態把握に努め、また地域の関係者とのネットワーク拡充に努め、高齢者だけでなく経済的困窮者、独居者、ひとり親家庭やこれらが複合したケースなどにも対応。今後も地域の拡充に努め関係機関との連携を図っていく。
81				介護予防ケアマネジメント		B	-	-	-	介護予防や生活支援サービス事業を利用する要支援者や事業対象者に対して、地域包括支援センターがアセスメントを行いケアプランを作成し生活上の困りごとなどを把握し、具体的な生活ができるよう支援してきた。
84			2 地域包括支援センターの適切な運営及び評価	地域包括支援センターの適切な運営及び評価		B	-	-	-	第1回、第2回の介護保険事業推進委員会において予算・活動予定、決算・実績報告を行った
85			3 地域ケア会議の推進	地域ケア個別会議		B	-	-	-	年間3回開催される会議、各圏域での事例対象者について、自立支援に資するケアマネジメントの実践に必要な環境について話し合い、確認していった。
				介護予防支援地域ケア会議		B	-	-	-	高齢者個人の個別課題やケアマネジメントの実践における課題の抽出を行い、いくつかのケースにおいて共通の課題が見られる内容については、地域課題として地域資源の開発などの政策形成に向けた課題の抽出を行った。今後も地域課題の解決に向けて事業に取り組んでいく。
				地域ケア圏域会議		B	-	-	-	包括が地域の課題等をテーマに開催する会議に、地区担当者が出席し意見交換や課題の共有を行うが、施策への反映には至らない。令和7年度は水谷東支え愛隊の活動報告の場とするなどしたい。
				4 重層的な支援体制に向けたネットワークの充実	重層的な支援体制に向けたネットワークの充実		B	-	-	-

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題				
86	2	2	1	在宅生活を支える施策の充実	配食サービス事業	実人数	157	100	見込	調理が困難で安否確認が必要な高齢者に対し、昼食の配食を実施。利用実績の減少や民間による代替サービスの普及により、令和8年度に事業縮減予定。				
						延べ利用食数	24,835	14,695						
寝具乾燥サービス事業					実人数	100	70	見込	寝具乾燥が困難な高齢者世帯に対し、寝具乾燥と年1回の水洗いを実施。一般家庭における寝具の利用実態、安価で高機能な寝具や布団乾燥機の普及など、社会情勢の変化を考慮し令和8年度に介護保険事業推進委員会に諮り、縮減内容を決定予定。					
					延べ利用回数	1,760	1,267							
緊急時連絡システム事業					実人数	360	313	見込	緊急時連絡システムの貸与を実施。施設入所や死亡に伴う停止数が新規利用申請者数を上回り、過去7年以上減少傾向にあるが、必要な方が利用できる体制の維持を続ける。					
					内障がい者数	23	21							
87					2	2	1	在宅生活を支える施策の充実	日常生活用具給付等事業	電磁調理器利用件数	3	0	見込	認知症など火災の危険がある独居高齢者に対し、電磁調理器の給付を実施。オール電化住宅などの増加により、IHコンロが一般化している。そのため、電磁調理器のニーズは少なく、利用実績は年々減少傾向にある。介護保険事業推進委員会に諮り、令和8年度電磁調理器の新規受付を停止予定。
										高齢者電話利用実人数	44	27		
88					2	2	1	在宅生活を支える施策の充実	ふれあい収集事業	人数	160	186	見込	高齢者や障がいのみの世帯で、自力でゴミを集積所へ搬出することが困難な世帯へ週1回ゴミを戸別収集するとともに安否確認を実施。利用者数が増加しており、令和6年度から火・木曜日以外に、水曜日を追加した。必要な方が利用できる体制の維持を続ける。
										紙オムツ支給（家族介護用品給付）事業	支給実人数	250		
89	2	2	1	在宅生活を支える施策の充実	自立支援型ショートステイサービス事業	実人数（新規）	2	0	見込	介護サービス費の支給対象とならない高齢者の養護老人ホームへの短期間の入所を実施。利用日数は原則7日を限度としている。本事業は虐待による一時避難としての利用を想定しているため、必要な方が利用できる体制の維持を続ける。				
						認知症高齢者見守り訪問事業	実人数	15			8	見込	定期的な訪問による見守りを行い、サービスが必要になった時期には必要な機関につなげる支援を行った。包括等関係機関からの依頼が少ないため、事業の周知が必要である。	
延べ人数	130	65	見込											

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題
89	2 住み慣れた地域で安心・安全な生活を続けるために	2 在宅高齢者支援の推進	1 在宅生活を支える施策の充実	市内循環バス特別乗車証交付	交付枚数	C	4,200	2,330	見込	令和6年度は特別乗車証の更新対応を行った。バス運行事業者から、令和5年12月に運転手不足等を理由に、市内循環バス継続が困難との申し出を受けたが、近隣市とバス運行事業者と協議を継続し、令和7年度以降も運行が継続されることとなった。しかし、依然として運転手の状況は予断を許さないため、バス運行事業者等と協議・調整し、公共施設や駅などへの交通手段としての市内循環バスを維持・継続できるよう取り組んでいく。
90				家具転倒防止器具等取付事業		B	-	-	-	取組状況：家具転倒防止器具の取付×4件、感震ブレーカーの取付×1件 今後の課題：委託業務に係る人件費及び物価高騰
				振り込め詐欺等対策機器購入費補助金		A	-	-	-	青パト講習会や出前講座での紹介に加え、年末街頭キャンペーンにて補助制度のチラシを配布した。また、市民から詐欺等の情報提供があった際にも積極的に紹介した。その結果、令和6年度の補助件数は54件（2月末現在）と、例年より多い件数となっているが、手口の巧妙化などにより、振り込め詐欺の被害は増加傾向にある。補助制度利用者を対象にしたアンケートでは、9割の方が詐欺対策の効果を実感していることから、今後も広く周知し、補助件数をさらに増やしていく。
	聴力低下への支援		B	-	-	-	ホームページで、加齢性難聴やそのセルフチェックについて掲載した。今後は、助成制度創設に向け検討していく。			
92	2 住み慣れた地域で安心・安全な生活を続けるために	2 在宅高齢者支援の推進	2 介護者等（ケアラー・ヤングケアラー）への支援	老人介護手当支給事業	実人数	C	149	135	見込	保険料の賦課が第1～3段階に区分される市町村非課税世帯で要介護3以上の認定を受けた高齢者を在宅で介護している方に月額5,000円を支給している。要介護3以上かつ非課税世帯の者は増加傾向だが、施設入所や死亡等により新規申請よりも停止した者の数が上回り、減少傾向にある。必要な方が利用できる体制の維持を続ける。
				延べ人数	1,143		1,105			
93	2 住み慣れた地域で安心・安全な生活を続けるために	2 在宅高齢者支援の推進	3 介護離職ゼロに向けた支援の充実	介護サービス等の公的支援策の充実		B	-	-	-	令和6年度は特別養護老人ホームハレサクや愛の家グループホーム富士見上沢が開設され、入所待機者が減少し、介護離職の防止に一定程度寄与できたと考えられる。今後は、ニーズ調査に合わせた調査を実施するなど、介護人材の需給を把握することが課題である。
				相談支援体制の充実		B	-	-	-	課主催の就職支援講座における労働法をテーマとしたセミナーにおいては、介護休業法や制度について触れるなどし情報提供を行った。また県が実施する労働セミナーや相談窓口の周知及びチラシ・ガイドブック等の配架を行った。今後も相談支援体制の充実を図るべく、県や他自治体との連携を強化し多方面からのアプローチが必要だと考える。

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題						
94	2	3	認知症施策の推進	1	認知症初期集中支援チームの取組み	認知症初期集中支援チームの取組み	相談実人数	10	11	見込	チーム員会議にて支援方針等を検討しながら対象者への支援を行った。今後も関係機関と連携しながら支援を行っていく。					
チーム活動件数							140	43	見込							
チーム員会議開催回数							24	12	見込							
95				2	3	認知症施策の推進	2	認知症ケア相談室の設置	認知症ケア相談室の設置	相談件数	5	0	見込	各包括支援センターで認知症の介護手法や技術に関することのみの相談について件数として計上しているが、通常、他の内容の相談も含むため、認知症ケア相談室としての相談件数はない状況である。次期計画では取組みの要否について検討する。		
96							6	認知症の方やその家族を支える取組み	徘徊探知機貸与事業	貸与件数	Re	22	9	見込	徘徊がみられる方に対して事業を実施。利用実績やGPS機器の民間事業者による代替サービスの普及により、令和7年度で事業終了予定。	
98										チームオレンジの構築	実利用人数	C	135	114	見込	ステッカー配布事業を実施。二次元バーコードを利用したツールやシステムについて研究。
							新規利用開始人数	25	13				見込			
99							7	認知症に関する普及啓発の推進	認知症ケアパスの作成	認知症サポーター養成講座の開催	開催回数	B	24	14	見込	小中学校、高校や民生委員等に対して開催。回数は少ないがサポーターの養成者数は目標を上回る見込み。周知のための開催について検討。
受講サポーター数											310		460			
受講サポーター数（延べ人数）											5,613		5,696			
100	認知症サポーターフォローアップ講座（ステップアップ講座）の開催	開催回数	C	2	1	確定	チームオレンジの形成を行ったため、フォローアップ講座の開催は1回となった。チームオレンジとの兼ね合いで講座を開催していく。									
受講人数		50		27												
101	2	4	在宅医療・介護連携の推進	1	医療・介護に関する相談支援	医療・介護に関する相談支援	相談件数（富士見市分）	C	60	32	見込	地域医療・介護相談室について広報への掲載やリーフレットを窓口に設置する等周知した。				
							医療と介護連携会議開催回数						3	3		
				2	医療関係者と介護関係者との連携	医療関係者と介護関係者との連携	参加人数	B	100	93	確定	医療と介護の連携に向けた検討を重ねている。後期高齢者人口の増加により医療・介護がより必要とされることから更なる連携が必要である。				
							多職種研修開催回数		3	2						
参加人数	400	274														

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題
103	2 住み慣れた地域で安心・安全な生活を続けるために	5 権利擁護の推進	1 成年後見制度の利用促進	成年後見制度の普及		B	-	-	-	成年後見制度に関する講座を市民向け、支援者向けそれぞれ1回ずつ開催した。
				地域連携ネットワークづくりの推進		B	-	-	-	成年後見制度利用促進協議会を5回開催し、地域における制度利用の課題等について情報・意見交換を行った。
104				中核機関の充実	相談実人数	A	115	85	見込	継続して支援が必要な相談が多く、申立支援等、丁寧な相談支援を行っている。
			相談延べ件数		394		504	見込		
105				2 虐待防止に向けた取組み強化	虐待防止のネットワーク体制の構築		B	-	-	-
106		介護サービス事業所への協力依頼			B	-	-	-	高齢者虐待防止に向けた研修会への参加を促し、実地指導時に事業所での研修も確認している。	
111	3 お互いが支えあい、生きいきと生活を送るために	1 お互いの支えあいの推進	1 生活支援コーディネーター活動の充実	生活支援コーディネーター活動の充実	活動回数	Z	1,200	330	見込	令和6年度までは、各地域の地縁組織及びボランティア団体等との関係性を築くため、多くの会議や打ち合わせ等の各団体が実施する会議や研修にて情報提供や情報収集を行い、出席した会議や研修の回数及び参加人数を目標値としていたが、生活支援コーディネーターと地縁組織及びボランティア団体との関係性が築くことができたため、令和6年4月から開始したウエルシア薬局の移動販売を活用し、買い物にきた地域の方から直接話を伺う等、ニーズ把握の手法を変えるほか、コロナ禍以前に活動していた団体がコロナ後も活動を継続しているかの確認や調査等、社会資源の把握を中心に活動を行ったため、目標値を多く下回った。
					第1層相当		800	180	見込	
					第2層相当		400	150	見込	
112			2 協議体の継続的な開催	協議体の継続的な開催	第1層協議体	B	3	2	見込	第1層協議体の開催は各地域における課題の把握、今後目指す地域の姿について話し合いを行った。結果、水谷東地域支え愛隊のような活動を各地域で行うことが望ましいという意見が出て、どのように各地域で働きかけをするか等検討する必要がある。
			3 生活支援サービスの創出に向けた連携	生活支援サービスの創出に向けた連携		A	-	-	-	令和6年4月30日からウエルシア薬局株式会社の移動販売を開始した。今後の課題としては、移動支援を行おうとするまちづくり協議会にSCが積極的に関与し、体制作りに協力していくことが挙げられる。
113		2 社会参加の促進	1 介護支援ボランティアポイント事業の推進	介護支援ボランティアポイント事業の推進	登録人数	B	350	350	見込	登録説明会を毎月実施した。広報に載った月は、参加者が多くなるため来年度は毎月掲載を予定している。
			2 パワーアップ・リーダーの養成	パワーアップ・リーダーの養成	回数	C	16	2	見込	令和6年度末から養成講座を実施予定。クラブがない町会等へ働きかけていく必要がある。
					延べ人数		160	14	見込	
114			3 高齢者の就業への支援	高齢者の就業への支援		B	-	-	-	高齢者も含めた全世代向けの就職支援講座を実施。また関係機関が実施する高齢者向けのセミナーや技能講習等の情報周知を行った。内職相談においても高齢者からの求職相談に対応し、適当な内職提案及び連携機関の紹介を行い高齢者の就業支援に努めた。今後も適宜その方のケースに合った情報を提供出来るよう、連携機関とのこまめな情報共有をより一層強化する必要がある。

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題			
114	お互いが支えあい、生きいきと生活を送るために	2 社会参加の促進	4 市民人材バンク制度の活用	市民人材バンク制度の活用	登録件数	B	230	231	見込	市民人材バンク推進員の会と協働の広報活動等により、利用件数や新規登録者の増加しており、地域人材の活用につながっている。しかし登録者の高齢化による登録削除も増えているため、登録更新確認の際に登録者が減ってしまう可能性が高い。			
利用件数					190		255						
延べ利用人数					8,200		9,134						
5 アクティブシニアの活躍推進			アクティブシニアの活躍推進		C	-	-	-	具体的な活動はあまりできなかった。60～70歳代は昨今の経済情勢により働いている方も多くなり、またステレオタイプ化したシニア観とは異なる方も多い。令和7年度は、第2期基本計画の策定に向け、庁内で生涯学習課や協働推進課等を含め議論を行っていく必要がある。				
6 その他の社会参加			ふじみ在宅福祉サービスセンター		B	-	-	-	令和6年度は地域支援事業実施要綱の改正に伴い、様々なボランティアが地域支援事業の生活援助を担うことできるようになり、基準も大幅に緩和された。このため、令和7年度は、地域支援事業として社協のふじみ在宅福祉サービスセンターを実施できないか、社協と検討を行っていく。				
115			3 生きがいがづくりの推進	2 デジタルデバйд対策	デジタルデバйд対策		B	-	-		-	【水谷公民館】株式会社ソフトバンクの職員を講師に招き、スマホ初心者を対象に講座を実施。課題は、内容の検討と新たな参加者の獲得。(10回73人) 【水谷東公民館】デジタルデバйд対策として、企業の協力をによるスマートフォン講座等を実施し、地域住民のIT活用向上を図ることを目的に開催している。二次元コードから講座の申込ができるようにすることで、参加した高齢者が積極的にスマートフォンを利用することにつながった。また、親子世代に対する講座も開催することで、幅広い年代に対してデジタル活用の支援をすることができたが、参加者の固定化が課題である。もっと多くの地域住民に受講してもらえよう、工夫する必要がある。 【南畑公民館】ソフトバンクのスマートフォン体験教室の提案を受け、「はじめてのスマホ講座」をデジタルデバйд対策として20名程度の定員で3回開催	
		3 老人福祉センターの利用促進				老人福祉センターの利用促進	利用人数	C	22,000	21,330	見込	コロナ禍で休止していた自主事業の回数を増やす等、利用促進を図りましたが目標達成には至りませんでした。利用者が特定化されている状況や公共施設マネジメントの観点も踏まえ老人福祉センターのあり方を検討する必要がある。	
		開館日数				291	294						
		118				4 老人クラブ活動・サークル活動の支援	老人クラブ活動・サークル活動の支援	クラブ数	C	21	19	確定	昨年度末をもって1クラブの解散があった。役員のなりて不足や会員の高齢化による活動頻度の減少があり、今後もクラブ数の減少が続く恐れがある。今後補助金のあり方について検討を行う必要がある。
								利用人数		960	870		
		119				4 介護人材確保と介護現場の生産性向上のための取組み	1 介護職員初任者研修の継続的な開催	介護職員初任者研修の継続的な開催	修了者数	B	24	23	確定
市内事業所への就職者数		15	10	見込									
120	2 入門的研修の継続的な開催	入門的研修の継続的な開催	修了者数		C				20	8	確定	令和6年度は若い世代にも受講できるように夏休み期間に開催したが、例年多くの応募がある子持ち世代の応募数が減少した。令和7年度は長期休みにかぶらない12月開催とする。	
			市内事業所への就職者数	2		0	見込						
	3 介護人材の確保・育成・定着につながる取組み			B	-	-		-	入門的研修及び初任者研修を継続的に開催し、また、埼玉県が実施している介護人材確保・定着に関する情報を市HPへの掲載や介護事業所に情報提供などを行うことで連携を図っている。				

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題		
131	4 介護保険事業を継続的に運営していくために	2 介護保険料の見込み	2	所得段階別介護保険料		A	-	-	-	令和6年度から15段階となるため、リーフレットやHPを通じ周知を図った。低所得者だけでなく、中間所得層の平準化を図ったことは、市民から高く評価された。令和7年度は高齢者の所得分布を調査研究し、適切な調整率や所得段階のありかたを検討していく。		
132			3	今後の介護保険料水準の見通し		A	-	-	-	近隣と比較しても遜色ない保険料であり、保険料収入も必要な額を歳入できている。次期改定に向けての課題としては、級地区分の見直しに連動した保険料の変更があげられる。		
134			4	介護保険料収納率の向上及び納付環境の整備	普通徴収分	93.50	97.00	見込	収納については、令和6年度は従来までの取組みに加え、郵便貯金等の調査を徹底して行い、速やかな滞納処分を実施した結果、計画を大幅に上回る収納率となった。今後は、滞納処分に関するノウハウを後任の職員にしっかりと引き継ぐことが課題となる。また、収納環境の整備については、令和8年1月のシステム標準化・共通化にあわせコンビニ収納を開始する予定であり、そのための準備を行った。			
					滞納繰越分	42.00	65.00	見込				
135			5	低所得者対策の充実	介護保険料の減免制度		S	-	-	-	急激な物価変動に対応するため、令和6年4月から、生活保護基準を参酌し、富士見市介護保険料減免基準の改正を行った。	
					介護保険サービス利用者負担助成	件数（年間）	Z	8,448	7,422	見込	移動支援に関する施策を実施するための財源として将来的に事業を廃止を検討した。当初、この事業は介護保険制度の利用促進・周知が目的であった。その目的は達成したという観点から廃止を検討したが、庁内では、事実上低所得者対策として位置づけられており、低所得者が依然として残っているのであれば、廃止すべきでないとする意見があった。これに対しては、低所得者に金銭を給付するのではなく、低所得者を含む高齢者全般が恩恵を受ける移動支援に対し税金を使用すべきという意見もあったが、対象者が限られるため、高齢者全般が恩恵を受けるわけではないという指摘もあった。	
					社会福祉法人等による低所得者に対する利用者負担軽減制度		B	-	-	-	令和6年8月にHPの更新を充実させたが、未参加の社会福祉法人への積極的な姿勢を促すことはできなかった。	
136			6	認定調査及び介護認定審査会の効率的な実施及び運営	認定調査におけるICT活用		B	-	-	-	調査時にタブレットを持参し、それに直接入力し、情報連携する仕組みを検討する必要がある。	
					認定審査会におけるICT活用		A	-	-	-	5つの判定会のうち3つの判定会がWeb判定に移行している。残りの判定会もWeb判定に移行していくことや、資料の送付を電子データでのやりとりとすること、判定結果を即時介護保険システムに取り込む仕組みを構築すること等が課題	
					適正な認定審査会委員数の確保		B	-	-	-	令和6年4月に新たに委員を委嘱し3年間の任期とした。2名が途中で辞職したものの、速やかに後任を確保した。医師会、歯科医師会、薬剤師会からの委員推薦が困難であり、なり手不足が大きな課題である。令和8年度末の更新に向けた人材確保を早期に進める必要がある。また、物価高騰に伴い委員報酬の見直しも検討する必要がある。	
137	4	4	介護給付費の適正化の推進	1	要介護認定の適正化・平準化	要介護認定の適正化・平準化		B	-	-	-	令和6年度は介護認定審査会研修会に6名の委員が、介護認定審査会委員現任研修に6名の委員が参加した。また、埼玉県の実施する模擬判定では、中央値となる要介護度と乖離の見られた判定会に対し、結果を周知することで判定の平準化に繋がるよう努めた。

第9期富士見市高齢者保健福祉計画進捗状況点検表

ページ	基本方針	施策	取組（大）	取組（小）	目標値・推計値	進捗状況	令和6年度計画値	令和6年度実績値	確定/見込	令和6年度の取組内容と今後の課題
-----	------	----	-------	-------	---------	------	----------	----------	-------	------------------

評価	評価内容
S	非常によくできた・目標を大きく超えた・計画初年（令和6年度）に実現できた
A	よくできた・目標を超えた・（R7年度調査のみ）計画2年目までに実現できた
B	ふつう・できた・目標どおり・（R8年度調査のみ）計画3年目までに実現できた
C	あまりできなかった・目標を少し下回った
D	ほとんどできなかった・目標を大きく下回った
E	できなかった・実績がない
Re	Reプロジェクトの対象となっている場合はこちらを選択する
Z	事情が大きく変わった・特筆すべき事項があるため評価できない・計画と異なる対応をする必要が生じているなど